

別紙

遊歩道敷設ルート案

当研究会では、遊歩道の敷設ルートとして以下の3案を検討しました（下図参照）。

これら3つのルートはいずれも目的地を台地上の丘の上に設定しています。これは、当該地ではほとんどの観察者が丘の上から観察を行うためです。このうち北側のルートである1案は、途中まで既存の刈分道を使うため新たに敷設するルートはもっとも短くて済みます。しかし、途中で凹地（常時水が溜まっている）を通るため、その部分を埋めるため大量の砂利と労力を必要とします。また、環境事務所前駐車場から来た人は、刈分道上で分岐を2ヶ所通らなければならないので、遊歩道に導くための案内標識等が必要になります。さらに、観察に適した時期は草丈が低いことから遊歩道を逸れて歩くことが可能であり、敢えて遠回りになるルートは利用されないと考えられます。次にもっとも営巣地寄りのルートである3案は、ロープ沿いに砂利を敷くことから、そのラインが観察ゾーンの限界であることをはっきり示すことができ、侵入の抑止効果は3案中もっとも高いと思われます。ただし、このルートも1案と同じく、分岐を通過して遠回りになるため実際には利用されない可能性が高いと考えられます。最後に真ん中のルートである2案は、分岐もなくほぼまっすぐに丘を目指せることから、利用者に馴染みやすく、もっとも利用度の高いルートになると期待されます。

以上の理由から、当研究会としては2案を推薦いたします。

